

ユーザーズ・マニュアル

AUDIOFUSE

Advanced Audio Interface
CONTROL CENTER

ARTURIA[®]
YOUR EXPERIENCE • YOUR SOUND

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frederic BRUN Philippe CAVENEL

ハードウェア開発

Marc ANTIGNY Pierre DEMOUVEAUX Jérôme LAURENT
Claire BOUVET Thierry HAUSER Léonard SAUGET

ソフトウェア開発

Timothée BEHETY Baptiste AUBRY Corentin COMTE
Pierre PFISTER Simon CONAN

デザイン

Martin DUTASTA Morgan PERRIER Axel HARTMANN

テストイング

Arnaud BARBIER Germain MARZIN Matthieu COUROUBLE

ベータ・テストイング

Luca LEFEVRE Ken Flux PIERCE Jay JANSSEN Boele GERKES
Terry MARSDEN Chuck ZWICKY Ben EGGEHORN Marco CORREIA

マニュアル

Randall LEE (author) Vincent LE HEN Jose RENDON Jack VAN
Minoru KOIKE Charlotte METAIS Holger STEINBRINK

© ARTURIA SA – 2019 – All rights reserved.
26 avenue Jean Kuntzmann
383300 Montbonnot-Saint-Martin
FRANCE
www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があり、それについてArturiaは何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部をArturia S.A.の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

Product version: 2.0

Revision date: 7 August 2019

安全にお使いいただくために

注意事項 (以下の通りですが、これらに限定されるというわけではありません) :

1. 本マニュアルをよくお読みになり、ご理解いただいた上でご使用ください。
2. 本機の使用方法に従ってご使用ください。
3. 本機を清掃する場合は、最初に電源アダプターやUSBケーブルなどすべてのケーブル類を取り外してください。また、清掃は乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやアルコール、アセトン、テレピン油など有機溶剤を含むものは使用しないでください。液体クリーナーやスプレー洗剤、濡れた布も使用しないでください。
4. 本機を浴室やキッチンシンク、プールなど水がある場所の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
5. 本機を落下する恐れのあるような不安定な場所に設置しないでください。
6. 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機を過熱から保護する開口部や通気孔を塞がないでください。本機を暖房等の熱源の近くや風通しの悪い場所に設置しないでください。
7. 本機を開けたり、本体内に異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあります。
8. 本機に液体をこぼさないでください。
9. 修理の際は必ず正規のサービス・センターにご相談ください。お客様ご自身で本体を開けたりされますと、保証対象外となります。また、不正な改造や調整は感電を起こしたり、故障の原因になります。
10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。感電の原因になることがあります。
11. 本機を直射日光下に設置したり使用しないでください。
12. ガス漏れが発生している付近で本機を使用しないでください。
13. Arturiaおよび正規代理店は、本機の不適当な操作等が原因による破損やデータ損失につきまして責任を負いません。

仕様変更について :

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のためにハードウェアの仕様を予告なく変更することがあります。

重要 :

本機およびそのソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

保証に関するご注意 :

本製品の機能に関する知識不足が原因 (設計時の想定外の使用法) による修理費は、保証の対象外となり、有償となりますのでご注意ください。Arturiaでは、マニュアルをお読みになることもオーナーの責任と捉えております。マニュアルをよくお読みになり、機能や使用法などを十分にご理解いただいた上で、修理をご依頼される際には、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。

AudioFuseをお買い上げいただきありがとうございます！

AudioFuseファミリーの各製品は、高品位な音質、わかりやすいワークフロー、高い費用対効果の最新プロオーディオ・インターフェイスです。各製品とも、ハイエンド・アナログオーディオの高音質で、レコーディングやライブに必要な高い柔軟性と接続性を備えています。

各製品とも、そのコア部分に高音質かつ低価格の新たなスタンダードを打ち立てたArturia独自のDiscretePRO®テクノロジーを採用しています。テクニカルな内容にご興味のある方は、[こちら](#)にDiscretePRO®の各種仕様の説明があります。

本マニュアルでは、AudioFuseファミリー製品用のソフトウェアであるArturia **AudioFuse Control Center**の各種機能や操作方法をご紹介します。お使いのハードウェアの機能や使用方法等につきましては、ハードウェアのマニュアルをご参照ください。

はじめに

親愛なるミュージシャン、

この度はAudioFuseファミリー製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます！AudioFuseファミリーは、最高の音質でレコーディングできるよう、最高品質のパーツを使用した高品位オーディオインターフェイスです。同価格帯ではかつてないほどのクリアな音質を実現しています。

本マニュアルは、AudioFuseシリーズ用に開発された強力なソフトウェアのAudioFuse Control Centerを使用することにより、AudioFuse製品の性能をフルに発揮させる際に役立ちます。

AudioFuse Control Centerを使用することで、AudioFuseシリーズ製品の本体パネル上での操作以上に多くのことができるようになります。本体のフロントパネル上での操作ではアクセスできないパラメーターや信号ルーティングのオプションにも手が届くようになります。

現在このマニュアルをお読みで、まだAudioFuse Control Centerをダウンロードされていない場合は、こちらから入手できます：[AudioFuse Control Center](#)

Arturiaのハードウェアやソフトウェア製品情報のチェックに、www.arturia.comウェブサイトをご活用ください。ミュージシャンにとって不可欠で刺激的なツールが豊富に揃っています。日本語でのArturia製品情報はarturia.jpに掲載しております。こちらも併せてご利用ください。

より豊かな音楽ライフを

The Arturia team

もくじ

1. AudioFuse Control Centerへようこそ！	3
2. オーバービュー	4
2.1. メインウィンドウ	4
2.1.1. 双方向のコミュニケーション	4
2.1.2. 基本的な操作	5
2.2. AudioFuseウィンドウ	6
2.2.1. AudioFuseのフロントパネルにあってAFCCIにはないコントロール	6
2.3. AudioFuse 8Preウィンドウ	8
2.3.1. AudioFuse 8PreのフロントパネルにあってAFCCIにはないコントロール	9
3. メニューバー	10
3.1. Arturiaメニュー	10
3.1.1. リサイズウィンドウ	10
3.1.2. AFCCマニュアル	11
3.1.3. アバウト	11
3.2. デバイス選択	12
3.3. ミニマルビュー (AF 8Preのみ)	12
3.3.1. Inputゾーンのミニマイズ	13
3.3.2. Monitoring Mixゾーンの非表示	13
3.3.3. Outputゾーンのミニマイズ	13
3.4. デバイスステータス (AF 8Preのみ)	12
3.5. デバイスセッティング	14
3.5.1. AudioFuseのデバイスセッティング	14
3.5.2. AudioFuse 8Preのデバイスセッティング	18
3.5.3. ファームウェアアップデート	19
4. AudioFuse	20
4.1. Settingsセクション	20
4.1.1. Clocks	20
4.1.2. Digital I/O	22
4.1.3. S/PDIF Out	23
4.1.4. Speaker B	24
4.2. メインインプット&アウトプット	25
4.2.1. アウトプット	25
4.2.2. インプットチャンネル 1&2	27
4.2.3. PHONES 1 and 2	28
4.3. PHONO LINE 3/4	29
4.3.1. 独立コントロール	29
4.3.2. 共有コントロール	30
4.4. ダイレクトモニタリングミックス	31
4.4.1. 共通コントロール	31
4.4.2. インプット構成	32
4.5. AudioFuseミックスルーティング	34
4.6. トークバック	35
5. AudioFuse 8Pre	36
5.1. インプットゾーン	36
5.1.1. アナログインプット	36
5.1.2. デジタルインプット	37
5.1.3. インプットゾーンのミニマイズ	37
5.2. モニタリングミックスゾーン	38
5.2.1. チャンネルディスプレイ	38
5.2.2. マスターレベルフェーダー	39
5.2.3. キューミックス設定セクション	40
5.3. アウトプットゾーン	41
5.3.1. モードによる機能の変化	42
5.3.2. スピーカーとヘッドフォン：特殊な機能	43
5.3.3. USBモード：アナログアウトプット	43
5.3.4. USBモード：デジタルアウトプット	43
5.3.5. USBモード：ループバックセクション	44
5.3.6. ADATモード：アナログ/デジタルアウトプット	42
5.3.7. アウトプットゾーンのミニマイズ	45
6. ソフトウェア・ライセンス契約	46

1. AUDIOFUSE CONTROL CENTERへようこそ！

Arturiaには人気の高いハードウェア製品とともに、ハードウェアの機能をアップできる補助的なソフトウェア開発の長い歴史があります。

AudioFuse Control Center (AFCC) もそうしたソフトウェアの1つで、既に注目を集めているAudioFuseオーディオインターフェイス製品に特化して設計されたソフトウェアです。ハードウェア本体の機能はもちろんのこと、本体上だけでの操作ではアクセスできない機能も使用できます。AFCCはWindowsとmacOS上で動作します。

多彩な機能を内蔵したAudioFuseハードウェアに、AudioFuse Control Centerの強力な機能とフレキシビリティを組み合わせることで、思い通りのレコーディングやコントロールが可能になります。

AudioFuse Control Centerの機能

- お使いのAudioFuseハードウェアのフロントパネルのほとんどのコントロール類をリモート的に操作できます。
- ワードクロック・インピーダンスやその他ハードウェア固有の機能で本体上からアクセスできないパラメーターを設定できます。
- 信号ルーティングや入出力レベル、チャンネルステータス等の情報をビジュアル的に確認できます。
- サンプルレートやシンククロックなどのデバイス設定をチェックできます。
- 複数のAudioFuseハードウェアの中から特定の1台をクイックに選択できます。
- アップデート可能なファームウェアをお知らせします。
- お使いのモニターディスプレイに合わせて画面サイズを最適化できます。
- WindowsおよびmacOS上で動作します。

2. オーバービュー

2.1. メインウィンドウ

AudioFuseシリーズの設計思想である "必要なものすべてが見えるところに" に合わせて、AudioFuse Control Center (AFCC) も1つのメインウィンドウのみの形態を採っています。メニューバーからアクセスできる基本的なセットアップオプション以外は、お使いのAudioFuseハードウェアで可能なことはすべて画面に表示され、追加メニューや別ページなどはありません。また、複数のAudioFuse製品をコンピュータに接続している場合は、コントロールしたいAudioFuse製品を簡単に切り替えることができます。

2.1.1. 双方向のコミュニケーション

AudioFuseデバイスとControl Centerの動作の関係はきつと気に入ってもらえるものかと思います：ハードウェア上のボタンを押すと、AFCC上の同じボタンが同じ動作をします。ボタン操作は双方向で動作するようになっています。つまり、ハードウェアまたはAFCCのどちらかのボタンを操作すればそのボタンの動作をします。

AudioFuseデバイスのノブのほとんどはアナログ式ですので、その操作はAFCC上には反映されません。唯一の例外はAudioFuseの大きなOutput Levelノブです。このノブを回すとAFCC上の同じノブの値が変化し、ノブのグラフィックも回りますが、AFCCでこのノブを回してもその動きに応じてAudioFuseの同じノブは回りません。

2.1.2. 基本的な操作

ボタンを押したり、メニューを選択したり、ノブやスライダーの動かすのと同様の、機能のごく基本的な使用法なのですが、その中には素晴らしい機能もあれば、これからAFCCの使い方を覚えていこうというビギナーの方ほど、一度おさらいしておくべきと思われる操作上のティップスもあります。

2.1.2.1. ツールティップス



AFCCの画面には各種コントロール類がエディットされると、その値が表示されます。また、コントロール類にマウスカーソルを乗せると、そのコントロールの現在値を表示します。機能やコントロール類の簡単な説明はAFCCの画面下部にあるステータスバーにも表示されるものがあります。

2.1.2.2. パラメーターをデフォルト値にリセットする

チャンネルのパンニングの値をセンターに戻すなど、パラメーターの値をデフォルト値に戻す簡単な方法があります。方法には2種類あり、1つはデフォルト値に戻したいコントロールをダブルクリックする方法と、もう1つはそのコントロールをOptionキーを押しながらクリック (macOS) またはAltキーを押しながらクリック (Windows) します。

2.1.2.3. 値の微調整 (0.1dBステップ)

レベルフェーダーやパンノブなど、値が大きく変化するパラメーターがあります。コントロールをクイックに操作して欲しい値の近くまで寄せていき、そこから以下の方法で微調整することができます：

- macOS：右クリック+カーソルをドラッグ、またはCtrlキー+カーソルをドラッグ
- Windows：右クリック+カーソルをドラッグ、またはCtrlキー+カーソルをドラッグ

2.2. AudioFuseウィンドウ

メインのAudioFuseウィンドウに表示されるコントロール類はセットアップに応じて自動的に変化します。各種設定につきましては以後のチャプターでご紹介します。



AudioFuse Control Centerインターフェイス

番号	セクション	機能
1	Settings [p.20]	サンプルレート、内部/外部クロック、デジタルI/Oルーティング、スピーカーBオプション
2	Main inputs/outputs [p.25]	インプット設定 (1&2)、マスターレベル、アナログオーディオ・ルーティングオプション
3	Phono Line 3/4 [p.29]	インプット設定 (3&4)
4	Direct Monitoring Mix [p.31]	パン、ゲイン、ソロ/ミュート、表示中の全インプットのステレオリンク (状況によって変化します)
5	Mix Routing [p.34]	ダイレクトモニタリングミックスの出力先選択
6	Talkback [p.35]	内蔵トークバックマイクのゲインと出力先設定
7	Menu bar [p.10]	デバイス選択、プリファレンス、画面リサイズ、ファームウェアアップデート

上表の通り、メインウィンドウのほとんどのセクションには複数の機能や設定があります。これらの詳細につきましては、それぞれのチャプターでご紹介します。

2.2.1. AudioFuseのフロントパネルにあってAFCCにはないコントロール

AudioFuseのフロントパネル上の全ボタンは同じものがAFCCの画面にもあります。これは、AudioFuse本体上のTalkbackボタンが押されている場合、AFCCのTalkbackセクションのLEDが点灯するといった例外もありますが、ほとんどはMain inputs/outputsセクション内に収まっています。

但し、AudioFuseの全コントロールがAFCCにあるというわけではありません。下表は、AudioFuseのフロントパネルにあって、AFCCにはないコントロールをまとめたものです：

コントロール	機能
Gain 1	インプットチャンネル1のレベル設定
Gain 2	インプットチャンネル2のレベル設定
Phones 1	ヘッドフォン1のレベル調節
Phones 2	ヘッドフォン2のレベル調節
Computer/ direct balance	AFCC上のMix Routingボタンの1つが押されている場合の、モニター出力に送られるダイレクト音とコンピュータからのオーディオ信号のミックスバランス調節

上記のコントロール類は完全にアナログのコントロールですので、ノブの動きをコンピュータと通信しません。そのため上記に相当するコントロールがAFCCにありません。

2.3. AudioFuse 8Preウィンドウ

AudioFuse 8Pre用ウィンドウは3段構成になっています。上段と下段は常に同じ基本アイテムを表示しますが、そのサイズや内容は必要に応じて変化します。中段はモニターミックスなどの機能を使用している場合などに応じて表示されるものが大きく変化します。また中段は、モニタースクリーンのスペースを有効に活用したい場合などの必要に応じて、表示/非表示を切り替えることもできます。



セクション	名称	機能
1	Input zone [p.36]	インプットタイプ、ボタンオプション、LEDレベルメーターの表示
2	Monitoring Mix [p.38]	キューミックスのコンポーネント、レベル、パンの調節、ソロ/ミュートのステータス表示
3	Output zone [p.41]	アウトプットペアごとのインプット/アウトプットのアサイン表示、インプットアサインのエディット (USBモード時のみ)、ループバック機能 (USBモード時のみ)、LEDレベルメーター

2.3.1. AudioFuse 8PreのフロントパネルにあってAFCCにはないコントロール

AudioFuse 8Preのフロントパネルにある全ボタンは、それと対になるボタンがAFCCの画面にもありません。フロントパネルのほとんどのボタンはAFCCのAnalog Inputsセクションにあります。

しかし、AFCCのメニューバーにあるModeやClock、Syncの各設定は、AudioFuse 8Pre本体のボタンが押されているなどの特定の状況のときにのみ変更されます。これらの各設定の詳細につきましては、AudioFuse 8Preのマニュアルをご参照ください。

AudioFuse 8Preのフロントパネルの中には、AFCCにはないコントロールもあります。下表はそれをまとめたものです：

コントロール	機能
Channel 1-8 Gain	フロントパネルのボタンでアナログ入力チャンネルのレベル設定
Speakers	メインのモニタースピーカーに送る信号レベルの調節
Headphones	ヘッドフォンのレベル調節

上記の各コントロールはいずれも完全にアナログのコントロールですので、コントロールの動きをコンピュータと通信しません。そのためAFCCにはこれらに対応するコントロールがありません。

同様に、AFCCのMonitoring Mixセクションの全コントロールはAudioFuse 8Preのフロントパネルにはありません。この中にはマスターフェーダーやグループトラックセレクターも含まれます。各コントロールの機能につきましては、[AudioFuse 8Preチャプター \[p.36\]](#)をご覧ください。

3. メニューバー

AudioFuse Control Center (AFCC) の画面最上部にはメニューバーがあります。この内容は選択したデバイスによって変わります。

3.1. Arturiaメニュー

AFCCの画面左上コーナー部分をクリックするとArturiaメニューが開きます。



3.1.1. リサイズウィンドウ



AFCCは、お使いのモニターサイズを自動検出して最適な拡大/縮小率を選択しますが、この自動設定を無視して任意の倍率を設定し、AFCCの次回起動時からその倍率を適用させることも可能です。

3.1.2. AFCCマニュアル



AFCCにはヘルプファイル (このマニュアル) が内蔵されています。ドロップダウンメニューから "Manual" を選択するとヘルプファイルが開きます。

3.1.3. アバウト



このメニューアイテムを選択すると、開発者のリストやバージョン番号などAFCCに関する情報が表示されます。

3.2. デバイス選択



この画面では、複数のAudioFuse製品が同じコンピュータに接続されている場合に、AudioFuseデバイスを選択することができます。これにより、任意のAudioFuse製品の設定等をAFCCから変更することができます。

3.3. ミニマルビュー (AF 8Preのみ)



デバイス選択でAudioFuse 8Preを選択した場合のみ、メニューバーにIN, MIX, OUTのボタンが表示されます。これらのボタンで各セクションを非表示にしてAFCCの画面を小さくし、ディスプレイを他の表示に有効活用できます。

InputとOutputゾーンは非表示にできますが、一部は表示されたままになります。一方、Monitoring Mixゾーンは完全に非表示/表示を切り替えられます。各ゾーンの表示/非表示はセーブされますので、次回AFCCを起動した際にはその状態を再現します。

3.3.1. Inputゾーンのミニマイズ

INボタンで各チャンネルのボタン (48V, Padなど) が非表示になりますが、チャンネルのアイコン自体は表示されたままですので、各チャンネルにどんなタイプの入力が続いているかが一目でわかります。この時、LEDメーターの縦サイズも小さくなります。INボタンをもう一度クリックすると元のフルサイズ表示に戻ります。


3.3.2. Monitoring Mixゾーンの非表示

MIXボタンでMonitoring Mixゾーンが非表示になり、InputとOutputゾーンが接した形となりAFCCの画面がさらにコンパクトになります。AFCCの画面を最小化した状態は、Monitoring Mixゾーンを非表示に、その他2つのゾーンをミニマイズした状態となります。チャンネルのミュート/ソロやパンニングを変更したい場合などに、Monitoring Mixゾーンはいつでも非表示を解除できます。

3.3.3. Outputゾーンのミニマイズ

OUTボタンで各アウトプットの入力ソースと選択メニューが非表示になり、LEDメーターの縦サイズが小さくなります。OUTボタンをもう一度クリックするとフルサイズ表示に戻ります。

3.4. デバイスステータス (AF 8Preのみ)

Sample Rate	Clock Source	Device Mode	
48000	Internal Clock	USB	

メニューバーにはAudioFuse 8Preの動作状態が一目でわかるフィールドが3つあります。

- **Sample Rate** : 動作中 (送出/受信) のサンプルレートを表示します。
- **Clock Source** : シンク信号の選択 (内部クロック、ワードクロック、ADATクロック) を表示します。
- **Device Mode** : 動作中のモード (USBまたはADAT) を表示します。

上記の各設定の詳細につきましては、AudioFuse 8Preのマニュアル等をご参照ください。

3.5. デバイスセッティング

メニューバーの右上コーナー部分にはギアの形をしたアイコンがあります。これをクリックするとデバイスセッティング画面が開きます。

どのAudioFuse製品を選択している場合でも、デバイスセッティング画面には3つのタブがあります。各タブの内容は、選択したAudioFuse製品によって変わります。

3.5.1. AudioFuseのデバイスセッティング

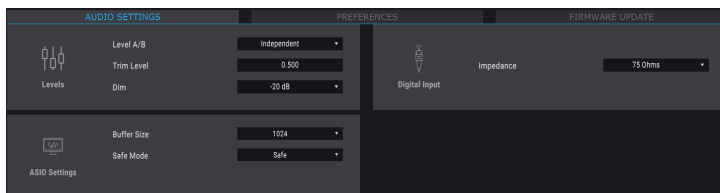
AudioFuseを選択している場合、3つのタブはオーディオ設定、プリファレンス、ファームウェアアップデートになります。

3.5.1.1. Audio Settingsタブ



♪: macOSのオーディオ設定画面にはASIO設定オプションはありません。

オーディオ設定画面ではAudioFuseの基本的な動作設定が表示されます。各パラメーターを1つずつご紹介します。



Level A/B

スピーカーAとBの出力レベルをリンクさせることができます。両方を別々のレベルにしたい場合はIndependentを選択します。



♪: Level A/BをIndependentに設定した場合、AudioFuse本体のOUTPUT LEVELノブを回した時に最上段のブルーLEDのみが点灯します。

Trim Level

モニタースピーカーの中には、他のモニタースピーカーよりも早くクリップしてしまう入力特性のものもあります。逆に、かなり高レベルの入力信号にもクリップせずに耐えられるものもあります。Trim Levelはそうしたギャップを補正する場合に使用します。

設定値にはポジティブ方向とネガティブ方向があり、クリックして上(ポジティブ)または下(ネガティブ)にドラッグして補正量を設定します。可変範囲は-12dB~+12dBです。

Ctrlキーを押しながらクリック+ドラッグするとより細かく設定できます。数値フィールドをダブルクリックすると値が0にリセットされます。

Dim Level

DIMボタンを押した時のステレオ出力レベルの減衰量を設定します。

Word Clock Termination

AudioFuseがワードクロックのマスターとして動作させたい場合、このパラメーターを設定する必要はありません。

AudioFuseがワードクロックのスレーブとして動作させたい場合は、次のような設定ができます：

- AFCCでClock Source [p.21]をExternalにし、Digital In [p.23]をW. CLOCKに設定します。
- Device Settings > Audio Settingsに進み、Clock Terminationフィールドをクリックします。
- Impedanceを75 Ohmsに設定します。この設定にすると、AudioFuseがワードクロックの接続チェーンの終端にあることになります。

複数の機器をワードクロックで同期させたい場合は、接続や設定方法は各機器のマニュアル等をご参照ください。接続順によっては、AudioFuse 8PreのようにバススルーやHi-Zに設定して、別の機器から受信したワードクロック信号を他の機器へ送出する必要がある場合もあります。これは必ずしもどの機器でもそうした設定ができるわけではなく、ワードクロック信号を各機器で確実に受信できるようにするために、BNC Tアダプターと75Ω終端プラグを組み合わせる必要がある場合もあります。

75 Ohm vs. Hi-Z：それぞれの使いどころ

AudioFuseが他の機器からワードクロック信号を受信する場合、ワードクロックの終端設定を正しく行うことが重要です。以下は、選択すべき設定をケース別にまとめた表です。

AudioFuseとマスター機器との接続	AudioFuseが接続の終端？	Clock Terminationの設定
ダイレクト接続	はい	75 Ohm
他の機器のBNC Tアダプター経由	いいえ [*]	Hi-Z

[*] ワードクロックの接続の最後の機器に必ず75Ω終端プラグを装着してください。機器によっては内蔵のものもありますので、お使いの機器のマニュアル等をご参照ください。



♪: ワードクロック接続の最後の機器では必ず75Ω終端回路を使用する必要があります。

ASIO Settings (Windowsのみ)

ASIO SettingsメニューはWindowsで使用している場合にのみ表示されます。

ASIO Buffer Size



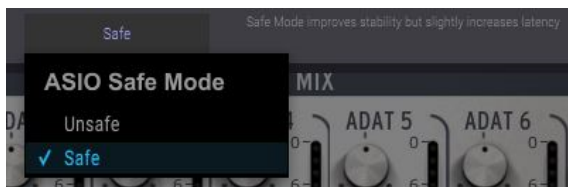
選択中のASIOバッファサイズにはチェックマークが付きます

CPU速度や負荷によってデジタルオーディオ処理にかかる時間が変化します。AFCCでは、お使いの環境に合わせて最適なバッファサイズを選択できます。

しかし、サンプルレートによっては対応していないバッファサイズもあります。そのようなバッファサイズを選択した場合は警告メッセージが表示されます。

Arturia USBオーディオドライバーはサンプルレートが変更される都度、最適なバッファサイズを自動選択します。自動選択による設定値は、オーディオ処理を適切に行うのに十分なサイズです。特に、オーディオ信号等のデータ転送の帯域幅が比較的狭いPC（どちらかと言えばローパワーのPC）をお使いの場合は、バッファサイズを変更することなく使用されることをお勧めします。一方で、バッファサイズを小さくするとオーディオのレイテンシー（遅れ）も短くなります。そのため、ASIOバッファサイズの設定は常にレイテンシーと適切なオーディオ処理とのバランス取りということになります。

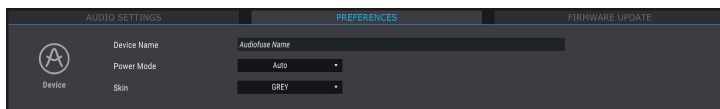
Latency



デフォルト設定はセーフモードです

セーフモードはオーディオサンプルの処理を確実にできるモードですが、CPU負荷が高くなります。セーフモードをオフ (Unsafe) にするとレイテンシーは短くなりますが、サンプルの抜け落ち (音飛び) が比較的发生しやすくなります。そのため、2~3トラック程度しか使わず、PCのパワーにかなりの余裕がある場合でない限り、Unsafeに設定することはお勧めしません。

3.5.1.2. Preferencesタブ



Device Name

フィールドをクリックすると、お使いのAudioFuseに任意のデバイス名を設定できます。

Power Mode

お使いの状況に合わせてAudioFuseの電源を設定できます。以下は各モードの内容です：

- **AUTO**：DCパワーサプライとUSBの両方から電源が供給されている場合、AudioFuseは全入出力が使用でき、信号レベルは最大+24dBuまでアップできるフルスペック状態で動作します。

AUTOモードに設定してもAudioFuseをUSBバスパワーのみで使用している場合（DCパワーサプライを接続していない場合）、AudioFuseの動作はGREENモードと同じになります。

- **GREEN**：USBバスパワーのみでAudioFuseを使用している場合は、このモードを選択します。このモードでも全入出力は使用できますが、最大信号レベルは+18dBuまでとなります。
- **MIXDOWN**：このモードではインプットはオフになりますが、最大信号レベルは+24dBuになります。
- **MIXDOWN GREEN**：インプットがオフになり、最大信号レベルは+18dBuまでとなります。

Skin

このメニューではAFCCのスキンを3タイプから選択できます。作業環境の照明を暗めに行っている場合や、長時間の作業で目の負担を軽減したいなどの場合は、GreyかDarkがお勧めです。

3.5.1.3. Firmware Updateタブ

ファームウェアアップデートの手順はAudioFuse製品で共通ですので[こちら \[p.19\]](#)をご覧ください。

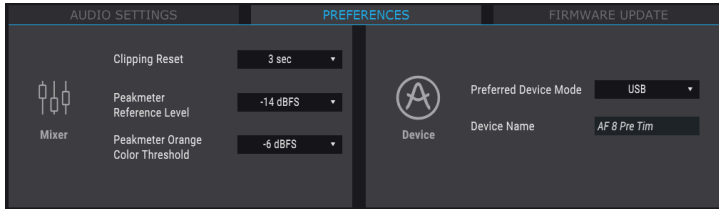
3.5.2. AudioFuse 8Preのデバイスセッティング

AudioFuse 8Pre用のデバイス設定には、Audio Settings、Preferences、Firmware Updateの3つのタブがあります。

3.5.2.1. Audio Settingsタブ (AF 8Pre用)

Audio Settingsタブでは、AudioFuse 8Preのオーディオとワードクロックの基本設定を行います。

3.5.2.2. Preferencesタブ (AF 8Pre用)



Device Name

フィールドをクリックすると、お使いのAudioFuse 8Preに任意のデバイス名を設定できます。

Device Mode

AudioFuse 8Preの動作モード (USBまたはADAT) を選択できます。動作モード切り替えはAudioFuse 8Pre本体上でも行えます。各モードの詳細につきましては、AudioFuse 8Preのマニュアルをご参照ください。

Clipping Reset

AFCCのクリップLEDが点灯してからリセットされるまでの時間を選択できます。選択オプションは次の4つです：

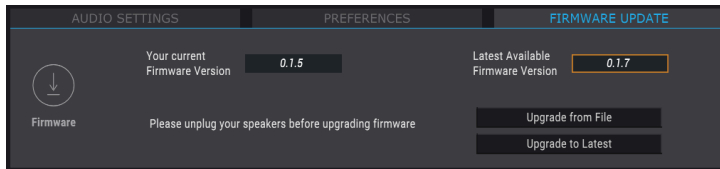
- **None**：LEDがすぐにリセットされます。
- **Infinite**：手動でリセットしない限りLEDが点灯し続けます。
- **1.5 sec**：LEDが1.5秒点灯してからリセットします。
- **3 sec**：LEDが3秒点灯してからリセットします。

3.5.2.3. Firmware Updateタブ (AF 8Pre用)

AudioFuse 8Preのファームウェアアップデート手順は、[次のセクション \[p.19\]](#)をご覧ください。

3.5.3. ファームウェアアップデート

Firmware Updateタブは、各AudioFuse製品で共通です。



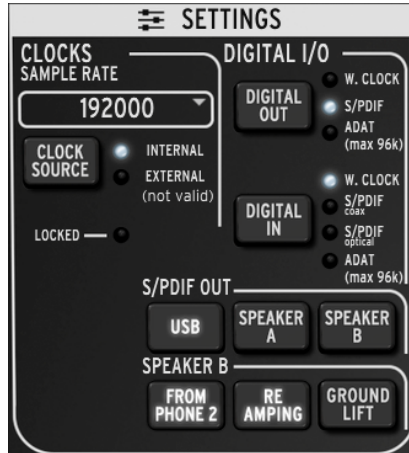
お使いのAudioFuse製品の新しいファームウェアが使用できる場合、AFCCがお知らせします。ファームウェアアップデートの手順は、まず新しいファームウェアをダウンロードし、次に "Upgrade from File" をクリックしてダウンロードしたファイルを選択します。その後は表示される指示に従ってアップデート作業を進めてください。

! 注意：ファームウェアアップデート過程には、AudioFuseを2回再起動する手順が含まれています。お使いのモニタースピーカーを保護するため、ボリュームをゼロにしておくことを強くお勧めします。

4. AUDIOFUSE

Arturia AudioFuseは競合製品よりもコンパクトですが、AudioFuse Control Center (AFCC) を使用することでAudioFuseの多彩な機能が発揮されます。

4.1. Settingsセクション



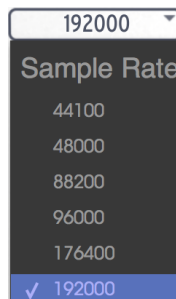
AudioFuseのSettingsセクション

Settingsセクションではシンクとオーディオルーティングの設定をします。

4.1.1. Clocks

4.1.1.1. Sample rate

このエリアではAudioFuseのサンプルレートを選択します。プルダウンメニューを開くと下図のようなサンプルレートの選択オプションが表示されます：



i 注：DIGITAL INがADATに設定されている場合、選択できるオプションはプルダウンメニューの最初から4つ目まで（44100から96000まで）となります。

4.1.1.2. Clock source

Internal

AudioFuseをクロックのマスターとして使用したい場合、クロックソースをINTERNALにセットします。これにより、DIGITAL OUTボタンで選択した出力先にデジタルオーディオ信号を選択したサンプルレートで送出します。



♪: ADAT対応機器に送出できるサンプルレートの最大値は96kです。

External/Locked

他のオーディオ機器を接続し、その機器をクロックのマスターとして動作させたい場合は、まず接続してその機器から必要なサンプルレートで信号を送れるかどうかをチェックします。次にCLOCK SOURCE ボタンをクリックして設定をEXTERNALに切り替えます (EXTERNAL側のLEDが点灯します)。



次に、SAMPLE RATEメニューを開いて接続した機器と同じサンプルレートにセットします。

上図のようにLOCKED LEDが点灯している場合、AudioFuseと接続した機器が完全に同期している状態になります。



♪: AudioFuseと接続した機器のサンプルレートは、必ず同一のレートに設定してください。そうでない場合、モニタースピーカーに出力するオーディオ信号の同期が取れなくなります。

4.1.2. Digital I/O

4.1.2.1. Digital Out

DIGITAL OUTボタンには3つの選択オプションがあります：

- W. CLOCK (ワードクロック)：コアキシャルの出力端子を使用する場合に選択できます。
- S/PDIF：コアキシャルの出力端子とADAT出力の両方で使用できます。
- ADAT：ADAT出力で使用できます。



DIGITAL OUTボタンを繰り返しクリックすると上記の選択オプションが順次切り替わり、選択したオプションのLEDが点灯します。

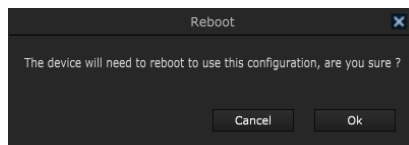


♪: デジタル出力にS/PDIFを選択した場合、S/PDIF OUTセクションの3つのボタンが使用可能になります。このボタンにつきましては、後述します。

DIGITAL OUTの選択オプションをADATからその他に切り替えた場合、またはその他のオプションからADATに切り替えた場合、AudioFuseの再起動が必要となります (それをお知らせするポップアップ画面が表示されます)。



注意: デジタル出力の選択オプションを切り替える際、大音量のポップノイズが発生することがあります。切り替える際には、モニターシステムのボリュームを必ずゼロに絞って切り替えてください。

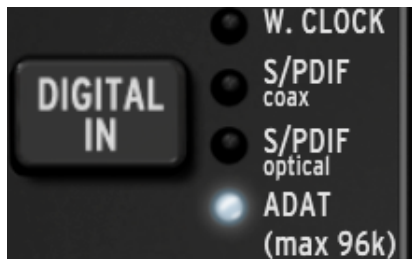


♪: DIGITAL INボタンをADATに選択した場合は、再起動のメッセージは表示されません。

4.1.2.2. Digital In

DIGITAL INボタンには4つの選択オプションがあります：

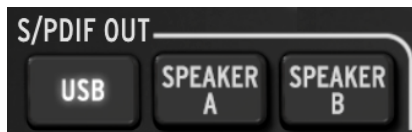
- W. CLOCK：デジタル入力でワードクロックを使用する場合に選択します。
- S/PDIF coax：デジタル入力でコアキシャルのS/PDIFを使用する場合に選択します。
- S/PDIF optical：デジタル入力でオプティカルのS/PDIFを使用する場合に選択します。
- ADAT：デジタル入力でADATを使用する場合に選択します。



DIGITAL INボタンを繰り返しクリックすると上記の選択オプションが順次切り替り、選択したオプションのLEDが点灯します。

4.1.3. S/PDIF Out

モニタースピーカーの中にはデジタル入力を装備したものもあり、AudioFuseと接続できるものもあります。DIGITAL OUTボタンでS/PDIFを選択した場合、S/PDIF OUTの3つのボタンが使用可能になります。



お使いのシステムに合ったオプションを選択してください。このボタンは排他的選択ですので、選択できるのは1つだけとなります。

- USBを選択した場合、コンピュータからAudioFuseに入ったオーディオ信号がS/PDIFアウトから出力されます。
- SPEAKER Aを選択した場合、Speaker Aアウトから出力されるのと同じ信号がS/PDIFアウトから出力されます。この場合、OUTPUT LEVEL, MONO, DIM, MUTEの各コントロールもS/PDIFアウトからの信号に適用されます。また、SPEAKER A-BボタンもAudioFuse本体での操作と同様に動作します。
- SPEAKER Bを選択した場合、Speaker Bアウトから出力されるのと同じ信号がS/PDIFアウトから出力されます。この場合、OUTPUT LEVEL, MONO, DIM, MUTEの各コントロールもS/PDIFアウトからの信号に適用されます。また、SPEAKER A-BボタンもAudioFuse本体での操作と同様に動作します。



♪: S/PDIFアウトの信号はコアキシャルアウトとADATアウトの両方に出力されます。

4.1.4. Speaker B

Speaker BアウトはPhones 2に出力されるのと同じステレオオーディオ信号に設定できます。このモードはFROM PHONE 2ボタンをクリックして点灯させた場合に使用可能になります。



SPEAKER Bが使用可能な状態の場合、それまでグレーアウトしていたRE AMPINGとGROUND LIFTボタンのグレーアウトが解除されます。

i 注: FROM PHONE 2を選択した場合、メインインプット/アウトプットセクションのSPEAKER A/Bボタンがグレーアウトになり、切り替えできない状態になります。詳しくはAudioFuseチャプターのメインインプット&アウトプット [p.25]セクションをご覧ください。

4.1.4.1. From Phone 2

FROM PHONE 2ボタンがオン(点灯)の場合、Phone 2セレクターボタン(メイン、キュー1、キュー2)で選択した信号がSpeaker Bアウトから出力されます。

この場合、Speaker Aアウトのボリュームはメインのアウトプットノブで調節できる状態のまま、Speaker BアウトのボリュームはPhone 2のアウトプットノブで調節できます。

4.1.4.2. Re-Amping (リアンプ)

RE AMPINGボタンはリアンプ機能を使用する時に使用します。このボタンがオンの場合、Speaker Bアウトのインピーダンスがギターアンプのインプットに適合する値に切り替わり、レコーディング済みのエフェクト等がかかっていないギタートラックの信号をギターアンプへ送り、アンプからの音を再録音できます。

上述と同様、Speaker Bアウト(リアンプ機能オン時は左ch)のボリュームはPhone 2のアウトプットノブで調節できます。

i 注: RE AMPINGボタンはFROM PHONE 2ボタンがオンの場合にのみ使用できます。

4.1.4.3. Ground lift

リアンプ機能使用時に、グラウンドループによるノイズやハム音が発生した場合に、Re-Ampingアウトのグラウンドを切断してノイズやハムをカットします。

i 注: GROUND LIFTボタンはFROM PHONE 2とRE AMPINGボタンの両方がオンの場合にのみ使用できます。

4.2. メインインプット&アウトプット

AudioFuse Control Center (AFCC) のこのエリアの画面構成は、AudioFuse本体のパネルと非常に近い見た目になっています。本体フロントパネルのボタンを押すと、それに対応したAFCC上のボタンも押された状態になります。



AFCCのメインインプット/アウトプットセクション

i INPUT CHANNELの各種ボタンは、インプットチャンネル1または2にケーブルが接続されている場合にのみ点灯します。上図ではチャンネル1に1/4インチケーブルが (INST LEDが点灯)、チャンネル2にXLRケーブル (MIC LEDが点灯) がそれぞれ接続されています。接続したケーブルによって使用できないボタンはグレーアウト表示になります。

4.2.1. アウトプット



4.2.1.1. レベルノブ

ノブをクリックして上または下にドラッグするとアウトプットのレベルが上下します。ノブのグラフィックの下にその時のレベルが表示されます。このレベルの数値は、AudioFuse本体のノブを回した時にも変化します。

4.2.1.2. ソースセクター

AFCCまたはAudioFuse本体のソース選択ボタンをクリックする/押すと、アウトプットに送られる信号のソースがメイン、キュー1、キュー2のいずれかに切り替ります。メインを選択するとCUE 1と2の両方のLEDが点灯します。

4.2.1.3. MONOボタン

このボタンを押すとステレオの出力信号がモノラルになります。MONOボタンは、楽曲の再生装置がステレオでない場合に音質に大きく影響する位相の干渉が起きていないかどうかをチェックする場合に便利です。

4.2.1.4. DIMボタン

このボタンをクリックすると、出力レベルが[AudioFuse Preferencesウィンドウ \[p.17\]](#)で設定したレベルに下がります。もう一度クリックすると元のレベルに戻ります。デフォルトでは-20dB下がる設定になっていますが、その他の値 (-10dB, -30dB) に変更できます。詳しくは、[メニューバーチャプター \[p.14\]](#)の[Audio Settingsタブ \[p.17\]](#)をご覧ください。

4.2.1.5. MUTEボタン

このボタンで出力レベルが無音（ミュート）になります。もう一度クリックするとミュートが解除されます。

4.2.1.6. スピーカーセクター

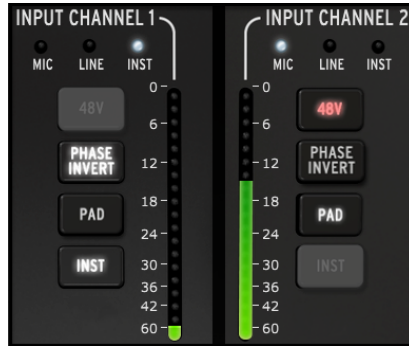
AudioFuseは2セットのモニタースピーカーを接続でき、このボタンで切り替えることができます。それぞれのレベルはアウトプットレベルノブで調節します。2セットのスピーカーのレベルをリンクさせたり、オフセットさせたりすることがPreferenceウィンドウで設定できます。詳しくはメニューバーチャプターの[Audio Settingsタブ \[p.14\]](#)をご覧ください。



ⓘ: Speaker A/Bボタンがグレースアウトしている場合、Speaker Bは選択できません。これはSettingsウィンドウのSpeaker BエリアにあるFROM PHONE 2ボタンがオンになっているためです。詳しくは[Speaker B \[p.24\]](#)セクションをご覧ください。

4.2.2. インプットチャンネル 1&2

ケーブルをインプットチャンネル1/2に接続すると、そのチャンネルのLEDが点灯します。接続したケーブルの種類で点灯するLEDが変わります。



4.2.2.1. マイク (XLR)

XLRケーブルでマイクを接続すると、インプットチャンネルのMIC LEDが点灯します。

48Vボタン

マイクの中にはファンタム電源が必要なものもあります。48Vボタンがオレンジに点灯している場合、ファンタム電源を供給しています。

PHASE INVERT ボタン

このボタンで入力信号の位相が反転します。これは例えば2本のマイクの距離を離して同じ音源を狙った場合に、特定の帯域が強調され過ぎるのを解消するのに役立ちます。位相反転は音質上の不要な "こぶ" を抑える方法の1つです。

PAD (/BOOST) ボタン

このボタンにはパッド、ブースト、オフの3段階があります。

- パッド (白点灯)：入力信号のレベルを20dB下げます。
- ブースト (オレンジ点灯)：入力信号のレベルを10dB上げます。
- オフ (消灯)：入力信号のレベルは変化しません。




♪: ブーストはマイク接続時にのみ使用できます。

INSTボタン

マイク (XLR) を接続している場合、このボタンは機能上必要ありませんのでグレーアウト表示になります。

4.2.2.2. ライン/インストゥルメント (1/4")

楽器を1/4インチケーブルで接続すると、そのインプットチャンネルのLINE LEDが点灯します。この時、INSTボタンを押すと点灯するLEDがINSTに切り替ります。

 Info: AudioFuseのインプットに1/4インチケーブルを接続すると自動的にパッド機能がオンになります。入力レベルをさらに上げたい場合はPADボタンを押して、自動でオンになったパッドを解除します。

48Vボタン

1/4インチケーブルで接続した楽器等にはファンタム電源は不要ですので、このボタンはグレイアウト表示になります。

PHASE INVERTボタン

このボタンで入力信号の位相が反転します。モノの信号をインプットチャンネル1と2に同時接続して片方の位相だけを反転させて "疑似ステレオ" にするといった場合にも使えます。

PADボタン

パッド機能のオン/オフを切り替えます。

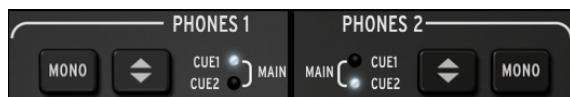
- パッド (白点灯)：入力信号のレベルを20dB下げます。
- オフ (消灯)：入力信号のレベルは変化しません。

INSTボタン

このボタンでインプットチャンネルの入力レベルとインピーダンス特性が切り替ります。接続した楽器に応じてご使用ください。

4.2.3. PHONES 1 and 2

2系統の独立したヘッドフォンチャンネルが使用できます。機能は両方とも同じですが、用途に応じて2系統で別々の設定にできます。



4.2.3.1. モノ出力

MONOボタンを押すとヘッドフォンへの出力信号がモノラルに切り替ります。

4.2.3.2. ヘッドフォンソースセレクター

ヘッドフォンでモニターしたい信号をメイン、キュー1、キュー2から選択できます。メイン選択時はCUE 1と2のLED両方が点灯します。

4.3. PHONO LINE 3/4



Phono Line 3/4セクション

シンプルのように見えますが、AudioFuseの機能の多彩さを物語るのがこのセクションです。シンセサイザーなどの楽器やターンテーブルを接続したり、リアンプ機能を使ってDAWからのギタートラックを再入力することもできます。

i **!**: インพุットチャンネル3と4は、1/4インチケーブルとRCAケーブルを同時に接続できません。RCA端子に接続した場合は1/4インチ端子はオフに、またはその逆というように、使用できる端子は1種類のみです。

このチャンネルとインพุットチャンネル1/2との大きな違いの1つは、3/4チャンネルで共有しているコントロールもあれば、独立しているコントロールもあるという点です。

4.3.1. 独立コントロール

4.3.1.1. GAINノブ (3/4両方)

インพุットチャンネル3と4の入力ゲインを適切なレベルにそれぞれ調節します。可変範囲は0dB~+20dBです。

4.3.1.2. INSTボタン (3のみ)

このボタンでインพุットチャンネル3のインピーダンスを切り替えます。

i **!**: リアンプ機能 [p.24]用にインพุットチャンネル3の1/4インチ端を使用することもできます。

4.3.1.3. PADボタン (3/4両方)

このボタンでチャンネルごとの入力レベルを20dB下げます。

4.3.2. 共有コントロール

4.3.2.1. リンクボタン (チェインのアイコン)



リンクボタンをクリックすると、3/4両チャンネルのGAINノブの向きがどちらか低いほうに一致し、それ以降はどちらかのGAINノブを操作すると、もう一方のGAINノブもそれに応じて変化します。

GAINノブ

リンクボタン点灯時は、GAINノブは技術的には共有コントロールになり、3/4両方のチャンネルのゲイン値が同じになり、一方を変化させるともう一方も同様に変化します。

4.3.2.2. PHONOボタン

ターンテーブルをAudioFuseに接続する場合、このボタンをクリックしてAudioFuse本体のリアパネルにあるPhonoインプットに接続します。このボタンをオンすることで、Phonoインプットの特性がRIAA規格に適合した状態になります。

ターンテーブルを接続する場合は、リンクボタンをオンしておくことをお勧めします。これにより、左右チャンネルのゲインレベルを揃えることができますが、何らかの理由で左右チャンネルのゲインを別々に調節する必要がある場合はリンクボタンをオフにすることもできます。



♪: PHONOボタンがオンの場合はインプット3/4の1/4インチ端子は使用できません。

4.4. ダイレクトモニタリングミックス



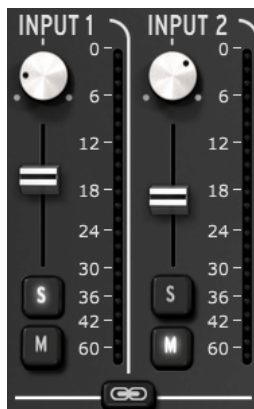
ダイレクトモニタリングミックスセクション：8ch ADAT画面

メインウィンドウのこのエリアでは、表示された各チャンネルの出力レベルとパンの設定に加え、ソロやミュート、チャンネルのリンクも設定できます。ここでミックスされたステレオ信号はメイン、キュー1、キュー2に送られます。

このウィンドウのこのエリアでは、4種類のインプットチャンネル構成があり、それらはSettings [p.20] セクションのDIGITAL INボタンで変化します。各構成はこのチャプターで紹介しています。

4.4.1. 共通コントロール

各チャンネルおよびペアになっているチャンネルのコントロール類はすべて共通しています：



- パン：ステレオ間の定位を調節します。
- レベルフェーダー：出力レベルを調節します。
- ソロ (S) / ミュート (M)
 - ソロ：ソロボタンを押したチャンネルのみ音が出て、それ以外のチャンネルは無音(ミュート)になります。
 - ミュート：ミュートボタンを押したチャンネルが無音になります。
- リンクチャンネル：ペアリングした2つのチャンネルの出力レベルを同時に調節できます。

4.4.2. インプット構成

4.4.2.1. 基本表示



DIGITAL INボタンでワードクロックを選択した場合、全サンプルレートで表示される画面構成が上図です。この画面構成が最も基本的なもので、4つのオーディオチャンネルのみが使用できる状態です。

4.4.2.2. S/PDIF表示



DIGITAL INボタンでS/PDIFのいずれか（コアキシャルまたはオプティカル）を選択すると、画面にペアリングされたオーディオチャンネルが追加されます。この場合、44.1kから192kまでの全サンプルレートが選択できます。

4.4.2.3. ADAT表示 (44.1/48k)



DIGITAL INボタンでADATを選択し、低サンプルレートのいずれか (44.1kまたは48k) を選択すると8つのADATチャンネルが表示されます。

4.4.2.4. ADAT表示 (88.2/96k)

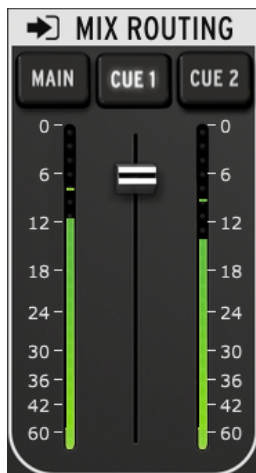


ADATのハイレート (88.2kまたは96k) を選択した場合は、ADAT機器からAudioFuseに転送できるチャンネル数が4になりますので、ダイレクトモニタリングミックスの画面でも4チャンネル分のADATチャンネルが表示されます。



♪: DIGITAL INボタンでADATを選択した場合、176.4kと192kのサンプルレートは選択できません。

4.5. AudioFuse ミックスルーティング

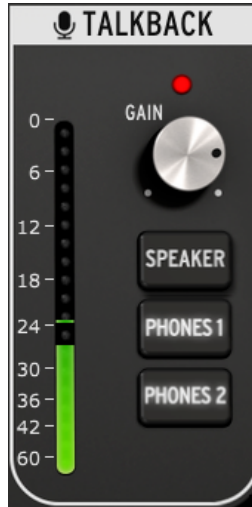


ミックスルーティングセクション

ミックスルーティングセクションでは、ダイレクトモニタリングミックスの出力先を選択できます。選択先はMain, Cue 1, Cue 2です。この3つを自由な組み合わせで同時出力させることができます。

ミックスルーティングセクションの出力レベルは、2つのLEDレベルメーターの間にあるフェーダーで調節できます。

4.6. トークバック



トークバックセクション



♪: トークバック機能は96kまでのサンプルレートでのみ使用できます。

トークバックセクションでは、AudioFuse本体のTALKBACKボタンを押した時に、内蔵マイクからのオーディオ信号の出力先を選択できます。出力先はSpeaker, Phones 1, Phones 2です。この3つを自由な組み合わせで同時出力させることができます。

トークバックマイクのゲインレベルは、出力先選択ボタンの上にあるGAINノブで調節できます。

トークバック使用時は、ダイレクトモニタリングミックスセクションの出力レベルが[Audio Settingsタブ \[p.14\]](#)で設定したレベルの分だけ下がります。これにより、ヘッドフォンでモニターしている人がモニタリング中のオーディオを完全に無音にすることなくフィードバックループを防ぎ、トークバックの内容が聞き取りやすくなります。

トークバック使用時に出力レベルが下がる量 (Dim) の設定方法は、メニューバーチャプターの[Audio Settingsタブ \[p.14\]](#)をご覧ください。



♪: AudioFuse Control Center (AFCC) にはトークバックボタンはありません。

5. AUDIOFUSE 8PRE

Arturia AudioFuse 8Preは、ラックマウントが可能なAudioFuse製品で、独自の機能を豊富に内蔵しています。AudioFuse Control Center (AFCC) を使用することにより、その機能を最大限に引き出しやすくなります。

5.1. インプットゾーン



AFCCの画面のメニューバー直下のエリアがインプットゾーンです。ここにはAudioFuse 8Preのフロントパネルで起きていることがバーチャル的に表示されます。また、ADATインプットに入力された信号レベルも表示されます。

5.1.1. アナログインプット

AFCCの画面表示を最大化した場合、AudioFuse 8Preのフロントパネルで起きているインプット関係のすべてが表示されます。そこには次のような内容があります：

- AudioFuse 8Pre本体のフロントパネルと同様のボタンがあり、本体からでもAFCCからでも操作できます。
- 各インプットの信号レベルを表示するLEDメーターがあります。
- 接続した機器のタイプをアイコンで表示します。

使用していないインプットチャンネルのアイコンは、AudioFuse 8Pre本体のようにコンポジャックのアイコンになります。そこに何かを接続すると、接続した機器のタイプによってアイコンが変わります。

例えば、マイクを接続するとスタンドにセットされたマイクのアイコンが表示され、1/4インチケーブルを接続すると1/4インチプラグのアイコンが表示されます。インプット1と2では、INSTボタンをオンにするとギターアイコンが表示されます。

 i: INSTボタンはアナログインプット1と2でのみ使用できます。

接続した機器のタイプによってグレーアウト表示になるボタンがあります。例えば、1/4インチケーブルを接続した場合、ファンタム電源は不要ですので48Vボタンはグレーアウト表示になり、使用できなくなります。

以下の表は各インプットのタイプで使用できるボタンの種類をまとめたものです：

アナログインプット#	ボタン名	表示されるインプットタイプ	使用可能な設定
1-8	48V	マイク	オン (赤点灯)、オフ
1-8	PAD	マイク ライン、インストゥルメント	オフ、パッド (-20dB)、ブースト (+10dB) オフ、パッド (-20dB)
1-2のみ	INST	ライン、インストゥルメント	オン (青点灯)、オフ
1-8	PHASE	マイク、ライン、インストゥルメント	オン (青点灯)、オフ



♪: インプットチャンネル1または2のインサートを使用している場合、アイコンは変化しません。

5.1.2. デジタルインプット

このセクションにはLEDレベルメーターがあるだけです。ADATインプットからの信号レベルをチャンネル別に表示し、その他に機能はありません。有効なADAT入力が検知されない場合、"DIGITAL INPUTS"のセクション名とアイコンがグレーアウト表示になります。

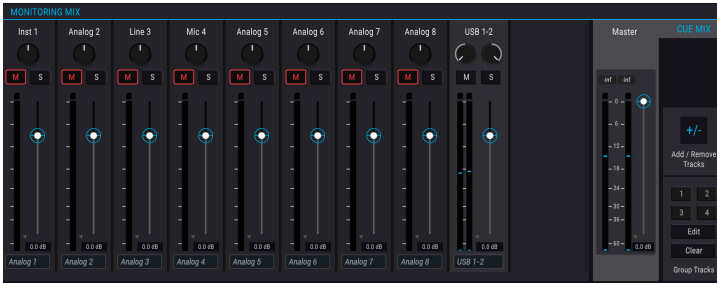
5.1.3. インプットゾーンのミニマイズ



メニューバーのINボタンをクリックすると、インプットゾーン (アナログインプットとデジタルインプット) 全体の表示が小さくなります。この時、各チャンネルのボタン (48V, Pad等) は非表示になりますが、接続した機器のタイプを表すアイコンは表示されたままになります。また、LEDメーターの縦サイズも小さくなります。

INボタンをもう一度クリックするとフルサイズ表示に戻ります。

5.2. モニタリングミックスゾーン



セクション	名称	機能
1	チャンネルディスプレイ	キューミックスチャンネルのレベル、パンの調節とソロ/ミュート切り替え
2	マスターレベルフェーダー&メーター	キューミックス全体のレベル調節とピークレベルを数値で確認
3	キューミックス：トラックの追加/削除	キューミックスのトラック指定
4	キューミックス：グループトラック	同時エディットのために複数のキューミックスチャンネルをリンク

AFCCの中段部分はモニタリングミックスゾーンです。ここでキューミックスを作成し、ミックスした信号をAudioFuse 8Preの任意のアウトから出力することができます。

このゾーンは、チャンネルディスプレイ、マスターレベルフェーダー、キューミックス設定セクションの3つのゾーンに大別されます。キューミックス設定セクション内はトラックの追加/削除セクションとグループトラックセクションの2つに分かれています。

5.2.1. チャンネルディスプレイ

モニタリングミックスゾーンの大半を占めているのが、このセクションです。どのチャンネルがここに表示されるかは、キューミックスをどういう構成にしたいかで変わります。例えば、アナログインプットは2~3トラックで、ADATは6トラック、USB経由でDAWから複数のトラックということもあります。どのトラックをキューミックスに立ち上げるかは、[Add / Remove Tracks機能 \[p.40\]](#)で設定できます。

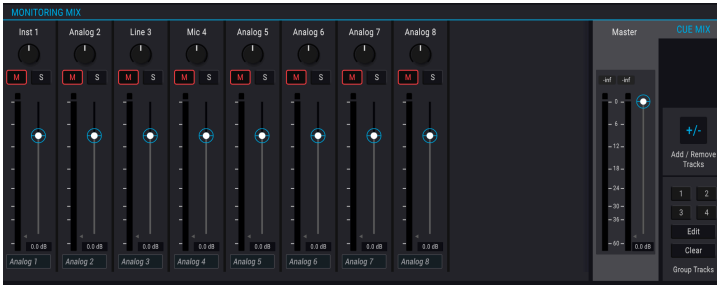
個々のフェーダーで各モノ/ステレオのインプットチャンネルのレベルを調節します。ここでのレベル調節はキューミックスにのみ適用されるもので、DAWのインプットチャンネルやMain 1-2アウトに送られる信号のミックスではありません。

チャンネルディスプレイの表示は、AudioFuse 8Preの動作モード (USBモードまたはADATモード) によっても変わります。

5.2.1.1. 各チャンネルの名称設定

チャンネルの名称を設定するには、チャンネルフェーダーの下にあるネームフィールドをクリックし、入力したい名称をタイプします。名称を設定しない場合はAnalog 1-2, ADAT3, USB 5-6等というように、デフォルト設定の名称になります。

5.2.1.2. 動作モードの違いによるキューミックスレイアウトの違い



上図とこのセクションの冒頭 [p.38]のグラフィックを見比べると、何ががないことに気付くかと思えます。そうです、上図にはUSB入力チャンネルがありません。何故かと言いますと、上図はAudioFuse 8PreがADATモードで動作、つまりA/Dコンバーターとして動作しているため、ミックスにはUSBチャンネルがないのです。ですが、AudioFuse 8PreがUSBモードの場合は3タイプの入力チャンネル(アナログ, ADAT, USB)をキューミックスに追加できます。

また、ADATモード時にはデジタルアウトゾーンの入力USBルーティングオプションもなくなります。モードによる機能の変化につきましては、[こちら \[p.42\]](#)をご覧ください。

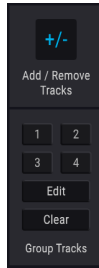
5.2.2. マスターレベルフェーダー

ハードウェアのミキシングコンソールのマスターフェーダーが、コンソールを通る全オーディオをミックスした全体音量をコントロールするのと同様、AFCCのマスターレベルフェーダーも、キューミックスへ送る前のチャンネルディスプレイに立ち上がっているすべての入力チャンネルのミックス全体のボリュームを上げ下げします。チャンネルディスプレイの個々のチャンネルレベルと同じく、マスターフェーダーもキューミックスにのみ適用され、DAWの入力チャンネルに送る信号や、Main 1-2アウトへの信号は変化しません。

5.2.2.1. マスターレベルのピーク値

フェーダーの上の小さなウィンドウには、再生中のピークレベルが表示されます。ダブルクリックするとこの数値がリセットされます。

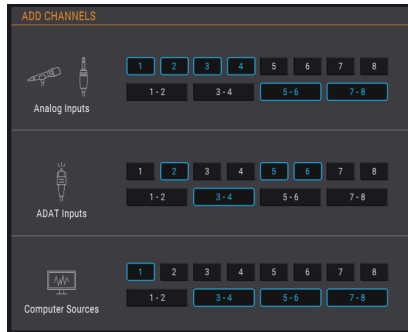
5.2.3. キューミックス設定セクション



このセクションではキューミックスの内容を設定できます。また、複数のキューミックスチャンネルを同時にエディットしたい場合に便利なトラックグループの設定も行えます。

5.2.3.1. Add / Remove Tracksボタン

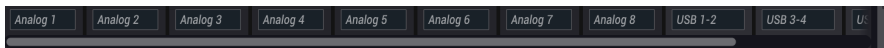
Add / Remove Tracksボタンをクリックすると、インプット選択ウィンドウが開きます。



このウィンドウには、キューミックスに追加できるすべてのインプットソースが表示されます。この中からキューミックスに追加したいチャンネル番号のボタン（ステレオソースの場合は2つの番号が入っているボタン）をクリックして選択します。チャンネル番号をクリックすると、バックグラウンドで表示されているモニタリングミックスセクションのチャンネルディスプレイにそのトラックが追加または削除されます。

唯一の例外はAudioFuse 8PreがADATモードで動作している場合です。ADATモード時には、USBチャンネルをキューミックスに追加できません。動作モードをUSBモードに切り替えると、このウィンドウにUSBチャンネルが表示され、選択できる状態になります。

チャンネルディスプレイ・アクセススライダ



キューミックスに使用するソースが多くなると、モニタリングミックス画面の底部にスライダ（スクロールバー）が表示され、横スクロールで各インプットソースにアクセスできるようになります。

5.2.3.2. グループトラック

この機能はキューミックス内のチャンネル(トラック)をグルーピングでき、グルーピングしたトラックを一括してコントロールすることができます。例えば、グルーピングしたトラックはクリック一発でソロ/ミュート切り替えができたり、レベル調節もフェーダー1本を動かすだけで行えます。

グループトラック機能では、4種類のカラーコードを使用できます。チャンネルをグルーピングすると、チャンネルのフェーダーの下のネームフィールドが設定したカラーコードと同色のハイライト表示になります。

トラックグループを選択するには4つのボタンから1つをクリックします。グループの選択後は上述のようにコントロールしたり、グループのエディットやグループ解消もできます。

トラックグループのエディット

トラックグループに個々のチャンネルをアサイン/削除する手順は次の通りです：

1. Group TracksのEditボタンをクリックします。
2. エディットしたいトラックグループの番号ボタンをクリックします。
3. トラックグループにアサイン(追加)または削除したいチャンネルのネームフィールドをクリックします。
4. 複数のトラックグループをエディットしたい場合は、1つのトラックグループのエディットを終えてから、別のトラックグループの番号ボタンをクリックし、そのグループにアサイン/削除するチャンネルを選択します。
5. エディットが完了しましたらEditボタンをクリックしてエディットモードから抜けます。

トラックグループの解消

トラックグループの全チャンネルを削除して最初からやり直したい場合、この操作は簡単です：

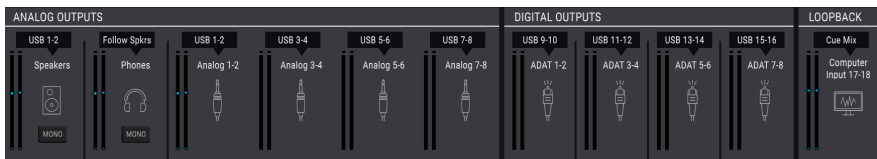
- Group TracksのClearボタンをクリックします。
- グループを解消したいトラックグループの番号ボタンをクリックします。

これでそのトラックグループのグルーピングが解消されます。



♪: モニタリングミックスゾーンはメニューバー中央部にあるMIXボタンをクリックすると表示/非表示が切り替わります。

5.3. アウトプットゾーン



AFCC画面の下端を横に広がるエリアがアウトプットゾーンです。ここではAudioFuse 8Preの各アウトから出力される信号のソースのほか、LEDメーターで各アウトのレベルも一目でわかるようになっています。AudioFuse 8Preの動作モード(USBまたはADAT)によって、どのインプットソースをどのアウトプットにルーティングするかを一度にペアでできるなどの違いがあります。

5.3.1. モードによる機能の変化

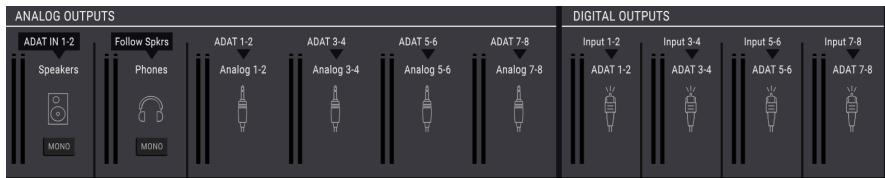
AudioFuse 8Preの動作モードによって、アウトプットゾーンの機能が変化します。最大の変化はループバック機能で、これはUSBモードでは使用できませんが、ADATモードでは使用できません。この他にもモードによって機能が大きく変わるものもあります。

5.3.1.1. USBモードでの機能

このセクションの冒頭 [p.41]のグラフィックはUSBモード時のものです。ここにはADATモードとは大きく異なる点が2つあります：

- 各アウトプットのペアに送る信号を、複数のソースから選択できます。各インプット/アウトプットの組み合わせは、それぞれ個別に設定できます。
- ループバックセクション [p.44]を使用して、別用途のミックスをDAWにレコーディングするといったことができます。この機能はUSBモードでのみ使用できます。

5.3.1.2. ADATモードでの機能



ADATモードではほとんどのインプット/アウトプットのルーティングが固定式になります。例えば、アナログインプット1-2は常にADATアウトプット1-2に、ADATインプット1-2はアナログアウトプット1-2にルーティングされます。

スピーカーとヘッドフォンの各アウトに対するインプットソースの選択はADATモードでも行えます。スピーカーアウトにはADAT IN 1-2とキューミックス、ヘッドフォンアウトにはADAT IN 1-2、キューミックス、フォロースピーカーが選択できます。

5.3.2. スピーカーとヘッドフォン：特殊な機能

5.3.2.1. MONOボタン

アナログアウトセクションのスピーカーとヘッドフォンにMONOボタンがあります。このボタンをクリックすると信号がモノラルになり、楽曲をモノラルスピーカーで再生した場合、ミックスに位相の干渉による問題が起きていないかどうかをチェックできますので、作業の区切りの良いところなど、一度ならず何度かチェックすることをお勧めします。

MONOボタンはUSBモードでもADATモードでも使用できます。

5.3.2.2. ヘッドフォン："フォロースピーカー" オプション

AudioFuse 8Preのフロントパネルのスピーカーノブの下にあるボタンで、スピーカーとヘッドフォンへ送る信号のソースをMAIN 1-2またはCUEのいずれかが選択できます。デフォルト設定では、スピーカーとヘッドフォンには同じソースを送りますが、AFCCではそれぞれに別々のソースを設定することができます。

スピーカーとヘッドフォンの上のメニューをクリックするとそれぞれへのソースを選択できます。または、ヘッドフォンの"Follow Speakers"を選択すると、ヘッドフォンへの信号は常にスピーカーへのソース選択に追従するようになります。

5.3.3. USBモード：アナログアウトプット

USBモードでは、各アナログアウトのペアに対して個別にソースを選択できます。例えば、アナログアウト1-2には、キューミックス、USBイン1-2、アナログイン1-2、ADATイン1-2の4つの選択オプションがあります。

下表はUSBモードで選択できる各アナログアウトとそのソースの組み合わせです：

スピーカー	ヘッドフォン	アナログアウト 1-2	アナログアウト 3-4	アナログアウト 5-6	アナログアウト 7-8
キューミックス	キューミックス	キューミックス	キューミックス	キューミックス	キューミックス
USB 1-2	USB 1-2	USB 1-2	USB 3-4	USB 5-6	USB 7-8
	フォロースピーカー	アナログイン1-2	アナログイン3-4	アナログイン5-6	アナログイン7-8
		ADATイン1-2	ADATイン3-4	ADATイン5-6	ADATイン7-8

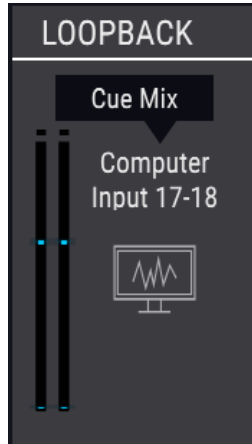
5.3.4. USBモード：デジタルアウトプット

USBモードでは、各デジタルアウトのペアに送るソースを選択できます。例えば、デジタルアウト1-2には、キューミックス、USBイン1-2、アナログイン1-2の3つの選択オプションがあります。

下表はUSBモードで選択できる各デジタルアウトとそのソースの組み合わせです：

ADATアウト1-2	ADATアウト3-4	ADATアウト5-6	ADATアウト7-8	ループバック
キューミックス	キューミックス	キューミックス	キューミックス	キューミックス
USB 9-10	USB 11-12	USB 13-14	USB 15-16	USB 17-18
アナログイン1-2	アナログイン3-4	アナログイン5-6	アナログイン7-8	使用不可

5.3.5. USBモード：ループバックセクション



ループバックセクションはAudioFuse 8PreがUSBモードで動作している場合にのみ表示されます。このセクションではAudioFuse 8Preのフロントやリアパネルからはアクセスできない入力チャンネルのUSB 17-18が使用できます。このチャンネルはUSBレコードストリーム専用チャンネルですので、別ミックスをDAWに直接録音するといったことができます。

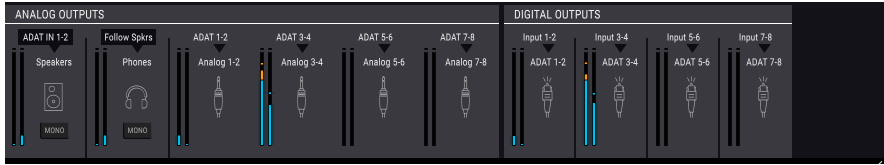
ループバックチャンネルのソースはUSB 17-18またはAudioFuse 8Preのキューミックスのいずれかが選択できます。また、この機能を使用しない場合はDisabledを選択できます。



♪: ループバックセクションはAudioFuse 8PreのADATモード時には表示されません。

5.3.6. ADATモード：アナログ/デジタルアウトプット

ADATモードでは、ほとんどのインプットとアウトプットのルーティングがアナログとデジタルの両方に固定されています。例えば、アナログイン1-2は常にADATアウト1-2にルーティングされ、ADATイン1-2は常にアナログアウト1-2にルーティングされます。



スピーカーとヘッドフォンへ送る信号のソースは選択可能で、選択オプションもUSBモードと同様です。以下はそれをまとめた表です：

出力先	ソースの選択オプション
スピーカー	ADATイン1-2、キューミックス
ヘッドフォン	ADATイン1-2、キューミックス、フォロースピーカー

 ループバックセクションはADATモード時は使用できません。

5.3.7. アウトプットゾーンのミニマイズ



メニューバーのOUTボタンをクリックするとアウトプットゾーン（アナログアウト、デジタルアウト、ループバック（表示されている場合））の全体表示が小さくなります。縮小表示の場合、インプットソースと各アウトの選択メニューが非表示になり、LEDメーターの縦サイズが小さくなります。

OUTボタンをもう一度クリックするとフルサイズ表示に戻ります。

6. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンサーとしてお客様（被ライセンサー）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリア社への書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリア社は、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリア社は、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとしてOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリア社は、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリア社は、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 著作権 ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのソフトウェアの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリア社は通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間か30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリア社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む) について、アートリア社が当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。